

神の国の奥義(35)

=人となられた神②0=

■御言葉:ヨハネ13章1-20節

- ① イエスの最後の愛(アガペ):Vincentによるとアガペの愛は区別的な選択と選びによる愛を意味する→主の好みのタイプがある(例 ペテロ)
- ② ユダの心に入れられた悪魔の思い→心(=思い:mind)を守ることの必要性
- ③ イエスの覚悟(3-4節)→十字架の意味とその時を知っている
- ④ 足の洗い(5節)
- ⑤ ペテロの心(6-9節)→ペテロの関心は主の十字架ではなく、自分だけ
- ⑥ 足を洗い合う意味:物理的なことではなく、互いの交わりのため 例 嫉妬・妬み・競争心・うわさ話などによって私たちの交わりは汚れる→主のへりくだりによる洗いが必要
- ⑦ 主のアイデンティティ(=IAM)と主を信じることの意義(19-20節)

■ 暗証聖句

Joh 13:1 さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。

Joh 13:10 イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、みながそうではありません。」

Joh 13:14 それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。

Joh 13:19 わたしは、そのことが起こる前に、今あなたがたに話しておきます。そのことが起こったときに、わたしがその人であることをあなたがたが信じるためです。

Joh 13:20 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの遣わす者を受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。わたしを受け入れる者は、わたしを遣わした方を受け入れるのです。